資料

平成30年度　佐賀県立有田工業高等学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
平和で民主的な社会の形成者として、個性豊かで人間愛に満ち、国際的視野に立って社会に貢献できる、心身ともに健全な人間を育成する。 ・地域を愛し、地域から愛される有工生を育て、地域に根ざした学校として更なる発展を目指す。 ・学力の向上を図るとともに、文武心三道確立を目指し、光り輝く有工生を育てる。 ・夢や目標を持ち続けるチャレンジ精神豊かな有工生を育てる。	①　挨拶、服装、マナー指導の徹底と思いやりの心の醸成 ②　学力向上対策の推進と資格取得による進路保障 ③　生徒会活動、部活動の活性化と文武心三道の確立 ④　保護者、地域、産業界との連携強化と特色ある教育の推進 ⑤　UDと5S運動（整理　整頓　清潔　清掃　躾）の推進

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①挨拶、服装、マナー指導の徹底と思いやりの心の醸成

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育（社会規範定着マナー向上）	基本的生活習慣の向上	・頭髪服装の違反者0人 ・交通マナーの向上	学期に2回程度の頭髪服装検査を実施する。事前に検査日を周知し、違反しないように呼び掛ける。 列車指導や登校指導の際に交通ルールを守らせる。その中で、挨拶や服装など基本的マナーを身に付けさせる。	B	・毎回の検査で合格できない生徒が2割近くいたが、再検査等でほぼすべての生徒が合格した。 ・交通マナーでは、スケアードストレイト自転車教室を行い、生徒の意識の向上が図られた結果、特に問題もなく、交通ルールを守っている。	・検査日のみならず、日頃から身だしなみの大切さを伝え、生徒自身が気を付けるように、声掛けを行う。 ・挨拶運動など、生徒も一緒に行うなど学校全体で取り組む。また、列車指導など校外での声掛けを行う。
			・問題行動の未然防止と再発防止	生徒をよく観察し、日ごろの生活態度に留意する。学年主任や各科主任と連携を取り、生徒情報の共有を図る。また学校生活チェックシートを活用し、問題行動後も生徒と関わることで、再発を防止し、意識改革に努める。	B	・問題行動の増加で、十分でなかったところがあり、反省点を来年度に活かしたい。指導をした生徒とは深く関わることでしっかりと反省をしてくれた。	・多くの問題行動の中で、軽はずみな行動により問題を起こしており、今一度事前によく考えて行動するような意識を植え付ける。未然に防止できるように、喚起や、友達同士での繋がり、関りを強くさせる。
	○人権・同和教育	人権・同和教育の推進	いじめ、差別などの人権問題に関心を持ち、積極的に取り組む生徒を育成する	・1年ネットいじめ、2年ノーマライゼーション、3年進路保障のテーマで、全学年ともに6月に人権学習・進路保障ホームルームを実施する。 ・11月に部落問題学習に関する講演会とホームルームを実施する。	B	・人権学習・進路保障ホームルームは、学年での事前準備のもと本校の実態に合わせた内容での実施ができた。　・講演会は、演題に即した感想文の内容が読み取れ、「自分に関係のあることとして聴くことができたか」の質問に対して95.4%が肯定的な回答であった。	・授業やHR活動だけでなく、部活動等における生徒の人間関係の把握や指導体制の在り方を確認する。 ・2016年に成立した「部落差別解消推進法」の職員の認知度調査において、認知度が十分ではなかったので、職員研修を充実させる。
	●いじめ問題への対応	早期発見、実態把握に向けた全校的な体制の推進	学校生活において、他者への思いやりの心を育てることで、生徒一人ひとりが安心・安全に学校生活を送れるようにする。	各学期に学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見に努める。また全校集会の時間を利用し、いじめ防止に向けて啓発を行う。年度末と年度当初に、覚知、認知の精査を行う。	C	・いじめの覚知・認知を数件行った。目標の中で、未然防止、早期発見を掲げていたが、結果としては良くなかった。集会や講演会を通して、友達との関わりを見つめ直す機会になった。	・月に1回いじめアンケートを実施し、早期発見はもとより、生徒自身の意識を高めることにより、未然防止に繋げる。また職員のスキルアップを目的に、研修会をしていく。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	図書館利用の推進	生徒一人当たりの貸し出し冊数7冊を目指す。	・朝読書を通して、生徒の図書館利用を促す。 ・図書館だよりで生徒のおすすめの本を紹介し、生徒の読書意欲を喚起する。 ・図書館のレイアウトを変更することによって、より足を運びやすい環境を作る。	B	生徒一人当たりの貸し出し冊数は目標の7冊には届かなかったが、図書館を整理し、レイアウトを変更したことで、来館者数は増えたように感じる。借りることはしなくても本を読むために来館したり、静かな自習場所を求めて来館する生徒も多くみられた。	朝の読書を実施しているが、アンケート結果によると、パソコンを見たり宿題をしたりと、読書に対する意識の低い生徒も少なくないようである。朝の読書が徹底できるようにと年度初めは正副担任に教室に行ってもらったが、来年度は回数を増やしたい。 図書館だよりには、生徒たちのおすすめの本を多く掲載することによって、もっと本へ関心を持ってもらうようにしたい。
		基礎学力の向上、定着	・定期考査における欠点数を昨年比で20%減らす。 ・基礎力テストにおいて不合格数平均を昨年比20%減らし、平均9点以上の数を20%増やす。 ・家庭学習時間の増加と習慣化	・授業、テストに真剣に取り組む指導とクラスの雰囲気づくりに努める。 ・定期考査時に学習記録を記入させる指導に取り組む。 ・各クラス・各科等で教科の目標点を決めて、その達成を目指す。（基礎力テスト） ・「家庭学習強化週間」を設けて、意識づけを図る。 ・各教科・科目において課題内容について吟味を行う。 ・適切な帰宅時間を習慣づけるための指導を行う。	C	1・2学期末の欠点数合計比較では、昨年比で50%増加（226→322）し、特に1人で多数の欠点を持つものが多くなっている。また、基礎力テストでは、不合格者数は平均91→98とやや増加。一方、年間平均9点以上の者は、42→44とほぼ同数であった。各学年・クラスで特別学習指導等を行い、成績下位者への指導を行ってもらったが、基礎学力や授業内容の理解が不十分なままの者が増加していることが明らかとなった。また、家庭学習時間もほぼ横ばいである。	学習習慣を身に付けさせることと学習が必要なものであるとの意識づけのために、適正な課題の内容と量のあり方、よりよい授業を成立させるための方策を学校全体で考える必要があると思う。また、基礎力テストについては、今までの形にこだわらず、生徒がよりやる気をだせる形を検討する。例えば、授業と連動した内容を課すなど。今年、1・2年生で取り組んだ特別学習指導は、成績下位者への意識づけと具体的な学習時間確保のためにも、続けていくことができればと思う。
	○進路保障	進路意識の形成	生徒自身が、自己の進路目標を明確化・具体化して、主体的に決定できるようにする。	・「進路のしおり」を改訂し、「ポートフォリオ」とともに活用してLHRの充実を図る。 ・企業訪問や新聞記事等の進路に関する情報を随時提供し、進路に対する意識の高揚を図る。 ・県内企業紹介会や進路ガイダンスを実施し、進路目標の設定や進路選択に役立てる。	B	・進路のしおりやポートフォリオの活用について、学年集会や保護者会を通じて紹介し、その活用についても資料を配布して対応した結果、来室時に持参するなど活用する生徒も増加した。 ・県内企業紹介会や進路ガイダンスは、生徒の希望によって実施するなど効率よく実施できたと考える。	・一次試験では、昨年度のような高い合格率を出すことができなかった。また、二次応募への対応が遅い生徒も多いため、一次二次を含めた進路目標をしっかり設定させるような指導が必要。 ・進路目標達成のために必要な方策や取り組みを計画的かつ継続して実行する能力の育成が課題。
		進路保障	就職内定率・進学決定率共に100%を目指す。 （2学期末までに）	・選考試験一次合格率90%以上を達成するため、進路対策補習や模擬面接を充実し、基礎学力および面接時の対応力の向上を図る。 ・前年度までの受験報告書を活用して対策を練り、目標達成のための努力を継続させる。 ・継続した個人面談および進路相談の実施により、進路選択から決定までの支援を徹底する。	B	・一次合格率は約88%で昨年度と比較してやや低下したが、学校紹介による就職の意思表示があった生徒の進路先は年内に決定することができた。 ・過去の受験報告書やICTを活用した受験対策を多くの生徒が実行することができた。 ・進学希望者の多様なニーズに応える進学指導ができた。	・自己理解を深めるとともに、目標とする進路先の情報や希望する業界の現況等を踏まえた進路目標を設定させることによってミスマッチの減少を図る。 ・進路ガイダンスや企業紹介会などのキャリア教育を充実する。 ・PTAや同窓会役員にも協力を頂き、面接指導の充実を図る。
	○資格取得	資格取得指導	ジュニアマイスター認定：ゴールド10名、シルバー25名、ブロンズ25名、校内表彰80名以上。3年間で全員が3つ以上の資格を取得する。	・顕彰制度、表彰制度を生徒・保護者・職員へ周知させる。 ・資格取得、コンクール参加を奨励、補習体制の充実	B	ジュニアマイスターとしてゴールド7名、シルバー18名、ブロンズ24名、校内表彰63名と目標には及ばなかったが、難易度の高い資格試験に挑戦をする生徒が増えてきた。	今年度よりジュニアマイスターブロンズ（20ポイント以上）も加わり、資格取得に対する意欲も増してきていると思う。次年度は更にブロンズの取得者を増やしていきたいと思う。
		ものづくり	各種競技会や公募展・コンクールなどに積極的に出場・出品をさせ、最優秀賞または1位を目標に、多数の入賞を目指す。	・授業・補習等の指導を物心両面から充実させ競技会へ万全の体制で挑ませる。 ・公募展の主旨説明を行うなど積極的参加を奨励し、授業・補習・部活動など多方面からの指導を行う。	B	全国高校デザイン選手権で優勝と輝かしい結果を残した。また、平成29年度佐賀県技能競技大会では佐賀県知事賞、佐賀県工業系高等学校第27回生徒学習成果発表大会では優秀賞を受賞した。	高校で身に付けた技術・技能を生かし、技能五輪全国大会で優秀な成績を収めた卒業生を輩出することができた。さらに、ものづくりの重要性をアピールしていく。また、積極的に公募へ挑戦するよう指導し、結果を残すことで自信をつけさせたい。指導方法の工夫や外部講師の起用で指導を強化していきたい。

③生徒会活動、部活動の活性化と文武心三道の確立

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
	○部活動・学校行事の活性化	学校行事の充実	学校行事への全生徒・全職員の主体的参加 参加者全員による校内アンケートで、「よかった」以上　80%を目指す	・事前準備と指導、連絡を確実に行い、全職員、生徒で作る行事にし、校内アンケートで成果をはかる。 ・職員と生徒の意見を早期から聞き取りながら、常に方向性を吟味する。 ・生徒会職員、生徒執行部を中心に必要に応じてクラス、学年、科、部活動、全体のまとまりある連携を取りながら進める。	B	○毎月始めの週に生徒会執行部で話し合いの場を設け、また生徒会分掌会を昨年より多く開き、各先生方からの意見を取り入れる機会を作った。 ○アンケート結果では「よかった」以上は体育祭91.9%文化祭87.5%となった。	・より円滑な行事の遂行ために、月に1度の生徒会部会の話し合いの時間を設定し、翌月の行事に備える。 ・業務の担当分けをより明確に行い、周知する。
		部活動の充実	生徒の精神的協調、協力、身体的成長、練磨を育む 体育部、文化部併せて5つの部活で県大会4位以内に値する成果をあげる	・練習試合など対外活動の月1回の実施 ・顧問会議を通して情報交換を行い、活性化に向けた提案などを受ける。 ・生徒の実態を把握した上で、主体的な活動としての部活動を作り上げる。	C	○部活動に有益な顧問会議や分掌会議を昨年より実施し、また部ごとの目標スローガンを掲げた。 ○県大会4位以内となった部活動は、野球部、ウェイト部、陸上部、美術部、であった。	・部活動入部を斡旋し、学校全体で志気を高める。 ・活動時期に合わせてメリハリのある部活動時間の確保や休養日の確保を提案する。

④保護者、地域、産業界との連携強化と特色ある教育の推進を図るとともに、業務改善を進める

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校づくり	保護者会との連携	PTA総会の出席率85%以上を目指す。	総会で進路実現のための情報を発信するような講演を行い、保護者が関心を持てるようにする。また、評議員の方々の協力で、総会参加を促進する。	B	出席率85% 例年80%ほどである。他校と比べても低い数字ではないが90%近い実績を出している学校もある。ただ内容は本校とさほど変わりはないので、PTA役員の皆様と協力していく必要がある。	休日行事なので多くの保護者の皆様が参加しやすいように工夫する。 例えばクラス面談が午前中に終えるようPTA活動報告を簡略化する。
		情報発信	ホームページの内容の充実および保護者への浸透。少なくとも週に複数回の更新	・逐次ホームページの情報を更新する。学校案内などとの整合性を保つ。 ・ホームページ管理更新の組織を明確にし、更新人員の拡充を行う。	B	ホームページの責任者を各科明確にし、主な行事・イベントなどの古い情報は精査し、個人情報などに配慮しながら極力発信した。	今後もホームページの更新を行い、常に新しい情報をアップしていきたい。ただし、情報内容に対し、個人情報等などが含まれていないか注意を要する。
教育活動	○キャリア教育支援	キャリア教育の充実	キャリア教育に関する生徒満足度80%以上 生徒の希望するインターンシップ受け入れ事業所を確保する。	・将来の進路を想像できる実技や講義を計画的に実施する。 ・実際に生徒が就職した実績のある事業所を開拓する。	B	キャリア教育のアンケート結果では約90%の生徒が働くことの意義・将来の自分の進路について考えることができた。また、2年生4名・3年生3名が10日間の長期インターンシップ研修を行い、長期インターンシップ発表会には事業所の方にも来ていただいた。新たなインターンシップ受け入れ事業所を開拓をする必要がある。	事業所のアンケート結果を見ると自主性・積極性が他の項目より低く、インターンシップに臨む姿勢や目的が理解できていないようである。1年生のインターンシップ事前指導に於いて、インターンシップの意義や目的をしっかりと訴えていきたい。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	職員の心身にわたる健康の増進（職員が元気あることで、生徒と共に活気あふれる学校であることを目指す）	勤務時間外労働時間の前年比20%減を目指す。	・部活動の休養日を設けることにより、職員・生徒の健康維持、健全育成を図る。 ・事務業務の簡素化、効率化を図り、職員が生徒と向き合える時間を充実させた上で、職員の帰宅時間を早める。 ・職員が心身の不調を感じた時には、随時休養または医療機関受診ができるような職場内の相互関係を築く。	B	・部活動の休養日設定は月を経るごとに定着してきた。運動部の1月の休養日は最少7日、最多9日と、月8日を目途とすることに対し、概ね達成できつつある。 ・職員の時間外労働時間は、年間通して前年度比18.6%減である。目標値までは到達できなかったが、ある程度の意識改革はできたと考える。 ・職員の健康維持管理に関しては、不調時にすぐ医療機関を受診できる職場環境は向上したと言える。	・部活動の休養日に関して、現状を推進していくためには、形骸化しないように月初の計画立案・実績記録を徹底する。 ・時間外労働時間の数値的な評価に止まらず、心身ともに健康で教育活動が行えるよう、業務改善を推し進める。業務量の片寄りやストレスを解消できるよう、まずは年度当初の学科、分掌内の意見交換を充実させる。また、年度中、職員が体調不良を起こした場合も想定して、予めカバーし合える環境を整えておく。

⑤UDと5S運動（整理　整頓　清潔　清掃　躾）の推進

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	環境整備・美化	5S運動を推進し、安全教育の充実と環境意識を高める。	・地元企業の5Sに対する取り組みを調査し、その内容を保健便り等に掲載するなどして、ものづくりに責任をもって取り組もうとする意識の向上を図る。	B	・学校全体で整理、整頓、清掃に努め、安全点検を各学期の前半の時期に実施するよう変更するなどして、校内の環境の改善・維持に取り組んだ。生徒の学校評価アンケートの5S運動に対する評価がさらに向上するよう、今後も5S運動の意義に対する情報発信を継続して行う。	・企業の5S運動への取り組みに関する情報を収集し、その情報を生徒へ発信し、5S運動への取り組みへの関心をさらに高める。生徒会とも連携して私物のごみの持ち帰り処分や、資源物の利活用の心がけの大切さについて継続して呼びかけていく。
	○生徒会活動	UD思考の考え	UDの啓蒙活動の実施 UDの視点を取り入れたボランティア活動	・月1、学期1の新聞発行をはじめ生徒会活動を通して、震災支援や防災の啓蒙、UDの視点を育む。 ・学期に1回の清掃活動などを行い、学校周辺の環境美化に貢献する。	B	・UDの思考が根底にある防災に関する新聞づくりは、より深く生徒に寄り添った原稿づくりができた。しかし一部の担当者の負担が大きい。 ・学校周辺清掃活動においては、効率的な活動時間帯を設定することができた。	・新聞発行については、より入念な計画と実施、係の増員を行う。 ・内容、人数、日程を検討して、より需要に合わせた奉仕活動を実施する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策
教育活動	●健康・体つくり	望ましい生活習慣の形成	口腔内の健康に対する意識を高め、歯科受診率25%以上を目指す。	・保健便りに1年生対象の歯科衛生講話の内容など、口腔内の健康の大切さに関する情報を毎学期掲載するとともに、未受診の生徒への学期ごとの連絡を実施し、2・3年生を含めた受診率の向上を図る。	C	歯科受診率は、全体で10%となり目標の25%以上にはならなかったが、昨年度よりも向上した。次年度の新3年生の未処置者の受診率の向上が特に課題としてあげられる。	保健便り等で口腔内健康の維持管理の重要性に関する内容を増やすとともに、1年生対象の歯科衛生講話の内容を紹介するなどして、長期休業前等の集会時での生徒への受診治療の呼びかけを継続して行う。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

学校教育目標達成に向けて、教職員・生徒そして保護者や地域の理解、協力を得ながら実践に取り組んだ結果、全体として概ね目標達成ができたと考える。進路保障やキャリア教育、学校行事に関する項目についてよい評価であった一方、いじめ問題への対応、基礎学力の向上・定着、望ましい生活習慣の形成、部活動の充実の項目については、やや不十分であるとの評価がなされた。そのうち昨年も達成度が低かった項目については、重ねての分析・検討を要する。新たに加わった業務改善・教職員の働き方改革の推進の評価項目においては、時間外労働時間の減少や健康維持管理に関して、具体的成果と意識向上が見られた。また、情報発信についてはデザイン科を中心に具体的な取り組みが進められた。次年度は、本年度の結果を踏まえ、各項目において具体的目標と方策の練り直しを行い、現況把握を怠らず、教職員・生徒の共通理解の元、さらなる改善に努めたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目